

# 宗 教



村田若狭の墓

表20 久保田町の米の生産調整

年 度	本田面積	水稲作付面積	転作面積	転作率
昭和46～47年	942	753	189	20%
昭和47～48年	938	576	362	39%
昭和48～49年	960	715	245	26%
昭和49～50年	965	840	125	13%
昭和50～51年	963	958	5	1%
昭和51～52年	960	955	5	1%
昭和52～53年	959	954	5	1%
昭和53～54年	959	853	106	11%
昭和54～55年	958	840	118	12%
昭和55～56年	958	809	149	16%
昭和56～57年	957	756	201	21%
昭和57～58年	957	755	202	21%
昭和58～59年	954	770	184	19%
昭和59～60年	951	783	168	18%
昭和60～61年	950	788	162	17%
昭和61～62年	949	781	168	18%
昭和62～63年	947	745	202	21%
昭和63～平成元年	946	740	206	22%
平成元～2年	944	745	199	21%
平成2～3年	937	738	199	21%
平成3～4年	933	735	198	21%
平成4～5年	910	780	130	14%
平成5～6年	908	774	134	15%
平成6年～7年	896	830	66	7%
平成7～8年	890	791	99	11%
平成8～9年	882	734	148	17%
平成9年～10年	875	712	163	19%
平成10年～11年	871	623	248	28%
平成11～12年	869	620	249	29%

## 一 仏教

### (一) 概要

久保田に各集落が形成されるようになると、住民の間に早くから仏教信仰の堂宇が建てられた。その年代を明らかにする確証資料は少ない。各寺の創建由来についても不明な部分が多い。現在地に創建された寺、他国、他所から移ってきた寺、創建当初の宗旨が後になつて改宗された寺や合併された寺、または廃絶されて痕跡もなく、名のみ記録されているものも少なくない。

徳川幕府は幕藩体制の一環として、全国の寺院に対して、それぞれの宗派の本山、本山と末寺の関係を維持する本末制度を確立させた。寛永十二年（一六三五）には寺社奉行を設けて、寺社、僧尼、神官に対する監督行政に当たった。

島原の乱後の幕府、諸藩には宗門改め役がおかれて、各戸ごとに宗旨調査が行われた。それは切支丹でないことや、その寺の檀徒であることを証明する寺請証文、あるいは戸籍の役割をもつ宗門人別帳の制度がとられた。このようにして、江戸時代以後、各戸ごとに特定の寺院の檀徒となることを義務づける寺檀制度が確立した。

久保田町の寺院の宗派別でみると臨済宗が最も多く、小城三間山田通興国禅寺の末寺となっている。これは中



六世 大安義明、第一七世 綿宗密山、第一八世 台山祖芳、第一九世 天外象山、第二〇世 旨外  
 覚禪、第二二世 睦州郁雄、第二三 世 雄嶽文友、第三代（現任職）大仙英法（本名武富英法）  
 文化三年（一八〇六）の寺院帳によれば、堂宇間数、本堂三間と七間、仏間二間に三間、庫裡五間二  
 二間、境内坪数 千五百式拾七坪、檀徒人員 八拾六人とみえる。  
 現在の本堂は平成元年再建したものである。

2 元昌山 妙鎮寺 久保田町小路

宗派 曹洞宗南禅寺派 本尊 釈迦如来

由緒 寛延三年（一七五〇）銘の『妙鎮寺略縁起』には「龍造寺大和守泰長院殿  
 の息女で、隆信の伯母妙鎮大師が家運長久、子孫繁栄のため天正四年（一  
 五七六）建立した氏寺である。開基は八戸村龍雲寺の謂山和尚。隆信、政  
 家も御本尊免として、田地、境内地を寄付した。その後、延享五年（一七  
 四八）に寺の造営、寛延三年（一七五〇）に御本尊、厨子を再興した」と  
 ある。

明治末の寺院帳には、「本堂二間二六間半、仏間二間二二間半、庫裡五間  
 方、境内広く、檀徒百八十人」とある。

墓地には本町初の衆議院議員石川又八の頌徳碑がある。



妙鎮寺

〔歴代住職名〕

開基 渭仏、第二世 悦叟珍、第三世 溪雲田、第四世 軌雲存、第五世 存堂、第六世 月圭門  
 第七世 卯山海、第八世 月江周、第九世 絶心縁、第一〇世 江天津、第一一世 泰屋賢、第二二  
 世 豊洲貞、第一三世 大暗恵、第一四世 東林隆栄、第一五世 虎外玄石、第一六世 寿山大栄、  
 第一七世 性山普伝、第一八世 泰岩玄静、第一九世 義閑自活、第二〇世 洞岳徳岩、第二二世  
 龍海初雄、第二三世 室中徳正、第二三世（現任職）水町尊光

3 松寿山 桂秀院 久保田町上新ヶ江

宗派 曹洞宗 高伝寺末寺 本尊 薬師如来

由緒 元亀元年（一五七〇）二月十五日 勝海和尚建立、その後万治元年（一  
 六五八）二月十日 壇中の帰依によつて高伝寺一〇世溪雲和尚を請じて開  
 山とした。寺院調に境内に五間の堂宇と広大な庫裡を有し、檀徒七〇四人  
 を算し、境内に開山建立の観音堂あり。寛文十年（一六七〇）七月長雲和  
 尚によつて、字下三ノ坪に大正庵を建立した。

〔歴代住職名〕

第一世 勝海、第二世 不詳、第三世 朗雲養、第四世 梅山香林、第五  
 世 流山玄長、第六世・第七世・第八世 不詳 天中殊祐 再中興節山殊貞、第九世 一快殊勤、第



桂秀院

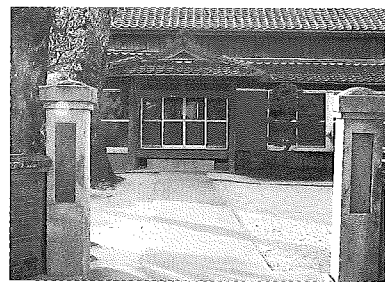
一〇世 顎峰桂雲、第一一世 越山非、第二二世 活禪龍、第三三世 泰洲卯、第一四世 道賢秀、  
 第一五世 大道忍、第一六世 大心海、第一七世 慈肯順、第一八世 雲山椿翁、第一九世 朴庵  
 惠淳、第二〇世 大演得成、第二二世 円觀相音、第二三世 大烹梵鼎、第三三世 大忍相覚、第二  
 四世 実道義孝、第二五世 (現任職) 堅徳義政 (武富義政)

4 共同山 寿慶寺 久保田町久富西

宗派 曹洞宗 本尊 釈迦牟尼仏

由緒 創建不詳 本寺は寶林寺の境外建物として同寺一二世悦堂和尚が開山した。その後日蓮宗、天台宗などの宗派の人が住職として寿慶庵を維持してきたが、昭和二十二年十一月、地区の総意により中島松二郎を開基として曹洞宗寿慶寺として再発足、佐賀八戸町龍雲寺第三二世碎石和尚を開山とした。

現任職 森永良孝



寿慶寺

5 満岳山 龍顔寺 久保田町上恒安

宗派 曹洞宗 本尊 十一面觀世音菩薩

由緒 元龜元年 (一五七〇) 満岳武蔵守藤原宗久は、父宗茂の遺志を継ぎ、後藤貴明 (武雄塚崎城主) の草

庵を改築し、本寺を創建した。

墓地には龍造寺隆信の兒小姓で一六歳で戦死した「烈士福地子之碑」のほか初代村長江口六蔵、二代村長満岡良貴、一〇代村長蒲原敬一の墓がある。

境内に地藏堂、六地藏一対がある。

本寺は佐賀城下 八戸の龍雲寺の末寺で数回改築されているが、年代不詳。

〔歴代住職名〕

開山 鳳山、第二世 舜翁波、第三世 峯室岳、第四世 嶺関、第五世  
 関祝座元、第六世 東雲月峯、第七世 太嶺義関、第八世 定山禅、第九  
 世 高峯日秀、第一〇世 文章海印、第一一世 恭岳滋潤、第二二世 無  
 文恵量

〔平地より法地、明治四十四年三月 寺格昇等〕

初世 蘇舜玄活、第二世 洞岳玄活、第三世 竜海初雄、第四世 王成盛道、第五世 福山敏明、第  
 六世 (現任職) 文珠章顯 (嬉野在) 管理者 徳山正典 (長崎在)

6 慈雲庵 久保田町大立野北

宗派 曹洞宗大雲寺末寺 本尊 觀世音菩薩

由緒 創建不詳 宝永八年 (一七二一) 開基と伝えられている。現在は本堂など寺の建物は無い。伝えられ



龍顔寺

ている住職名、室中密参、蜂谷啓三、荒木誠孝、森永良順、森永良孝が現住職である。

7 大正庵 久保田町永里

宗派 曹洞宗桂秀院末寺 本尊 薬師如来

由緒 寛文十年（一六七〇）七月十五日 長雲和尚建立、その後四世洞源和尚を請じ開山とした。堂宇 二間、境内 一六五坪の小庵だった。

現住職 武富義政



慈雲庵



大正庵

8 長福山・寶琳寺 久保田町草木田

宗派 臨済宗南禅寺派 本尊 聖観世音菩薩

創建不詳。開山仙翁竹大和尚。開山は永享十二年（一四四〇）没である。明治末の寺院調には「堂宇三間半二七間 境内坪数千三百坪、檀徒九百五十七人」とある。昭和三十年に嘉瀬川改修のため、現在地に移転した。寺伝によれば、川の中に流れている仏像を拾いあげまつたと伝えられる。草木田地区の一部を「得仏」と呼ぶのは、この由来からである。立派な山門は寛政九年（一七九七）の棟札

がみえ、「獅子窟」の額が掲げられている。獅子は修業僧のことで、この寺は修業僧の道場でもあった。本堂前の鐘楼は享和年間（一八〇一）〇三、肥前の名工詫田の番匠作といわれている。

墓所には読売新聞の創始者の一人である、本野盛亨もりかみの墓がある。

歴代住職名がわかっているのは、林心宗 林師慶 林仙宗 前住職は林

快川 現住職 林成道しんどう（和成）

9 臨江山 宝昌寺 久保田町中副

宗派 臨済宗南禅寺派 本尊 釈迦如来

由緒 創建不詳。開基 仲室文公禅師は文明十四年（一四八二）に入寂している。二世以下の住職名を掲げるが、代別は不明である。

道達玄 海晏隠 仙岩彭 天津銃 賢堂哲 黙翁説 笑庵徹 仁溪元寛  
欽船海 月窓英 興宗真 看護麟 千山 貫宗徹 禅機豊 浩堂博  
（現住職 阿南宗博）

10 補陀山 圓光院 久保田町中副

宗派 臨済宗南禅寺派 円通寺末寺 本尊 観世音菩薩



宝昌寺



寶琳寺

由緒 創建不詳

明治の寺院調に堂宇 三間二五間、境内坪数 七三三坪、壇徒 三九八人  
住職名でわかっている者、古賀耕平、前山琢磨、川野石禪、川野順二  
現住職 川野泰俊



圓光院



壽昌寺

11 福寧山 壽昌寺 久保田町徳間

宗派 臨濟宗南禪寺派 円通寺末寺 本尊 地藏菩薩

由緒 創建年不詳 開山玖峰良和尚(明応九年没)といわれる。口伝によれば最初壽昌庵と呼ばれる。隣りの陽盛寺(開山友叟益和尚)と江戸中期合併し、壽昌寺となす。第一八世快宗奇和尚のとき本堂再建。和尚没後廃仏棄釈の嵐に庫裡売却され、法燈まさに滅せんとする時、第一九世階膽和尚が廃寺を守り伽藍を完備した。現在の伽藍は昭和三十一年から四十四年まで一四年に亘って改修築したものである。  
寺宝 緋達摩画像(兆殿司筆と伝う)  
境内 地藏堂(銅板葺) 一棟

(歴代住職名)

開山 久峯良、第二世 玉英和、第三世 桂岳薫、第四世 竹雲賢、第五世 虎溪文、第六世 月松

智、第七世 柔澤順、第八世 正林道、第九世 靈室通、第一〇世 龍海珠、第一一世 丹山桂、第二二世 一行繼、第二三世 蘭洲菊、第一四世 快宗奇、第一五世 階膽随、第一六世 黙雄亀、第一七世 南嶺寿、第一八世 要堂寛(遠田寿寛)

12 歓喜山 興福寺 久保田町福所

宗派 臨濟宗南禪寺派 本尊 觀世音菩薩

由緒 創建不詳 開基 明林久は天正十七年十月入寂している。歴代の住職名を揚げておく。

(歴代住職名)

開山 明林久、第二世 祥旭久、第三世 教宗戒、第四世 大行、第五世 玄教、第六世 仁山智寛、第七世 實海證、第八世 仁那趾、第九世 英叔喬、第一〇世 田中恵三、第一一世 原潔臣、第二二世 西川龍雄、第二三世(現住職) 原晃道



興福寺



明春寺

13 樂音山 明春寺 久保田町下満

宗派 臨濟宗南禪寺派 本尊 藥師如來

由緒 明徳元年（一三九〇）十二月八日 明叟大和尚開山。当初樂音寺と号し天台宗に属した。その後多久千葉家一門の千葉明春剃髪して、当寺に入る（年号不詳）。それより樂音寺を樂音山明春寺と改称し、臨濟宗に転ず、明春永正七年（一五一〇）没。第三世香林応和尚のとき仏堂を改築。第一〇世大桃宣和尚のとき仏堂再改築。第一二世不淺和尚自己の病氣平癒を願い、信徒より淨財を集め大正十四年五月、日切地蔵を奉祠する。寺内に森永杉洞の木犀句碑がある。

〔歴代住職名〕

開山 明叟、第二世 傑山、第三世 香林応、第四世 育雲養、第五世 歳經盛、第六世 文海章、第七世 象山学、第八世 石溪復、第九世 大方益（大坪月溪）、第一〇世 松岩貞（袁田階騰）、第一一世 大桃宣（古賀祖芳）、第二二世 桂石白（栗原不淺）、第二三世 奇峰（西川龍雄）、第一四世 棟雲染、第一五世 舞嶽、第一六世 不淺量、第一七世 元英雄、第一八世 西川惠普

当寺は中世期火災に遭い記録焼失不明なるも明治維新のとき、隣利なる光明寺および長勝寺の二か寺を合併した。その遺跡は荒廃して墓石は四散、雑木竹林化した。

寺宝 涅槃像掛軸（年代不詳）

梵鐘（鐘の銘文）

遵晦眇明 其母得子 君奉禹湯 臣仰元凱  
肥前佐嘉那久保田村 施主 担那中  
塵々訪誰 刹々問己 碑動紺園 銘寡文移  
菩提願主 村岡弥兵衛  
大縁斯成 大功不宰 庶期妙峯 永贊滄海  
至宝妙光信女 松下市五郎

文政二<sub>二</sub>卯十月十八日

小比丘 宣大桃謹白

徳島 惣助  
古賀 作十  
治工 谷口弥右衛門

14 恵日山 永福寺 久保田町下満

宗派 臨濟宗南禪寺派 本尊 聖観世音菩薩

由緒 開山大興和尚と伝えられている。寺院明細帳には文明十五年（一四八三）小城三間寺円通寺末寺として第四世覚海閑悟和尚が設立に寄与したとある。明治初期 勝前寺を合併した。

〔歴代住職名〕

開基 大興、第二世 大隠、第三世 無隠、第四世 開應、第五世 春谷  
広嶽、第六世 儀雲達、第七代 太田禅良、第八世（兼務）西川龍雄、第九世（兼務）原晃道

15 長寿山 保福寺 久保田町福所

宗派 臨濟宗南禪寺派 本尊 薬師如来

由緒 開基は天正年代（一五七三〜九二）、龍造寺隆信によって建立されたと伝えられる。当時は十三軒寺ともいわれた。保福寺文書には龍造寺政家の黒



保福寺



永福寺

18

彦隆山 西持院 久保田町福所

宗派 天台宗山門派 本尊 阿弥陀如来

由緒 開山は彦山権現の山座主六ヶ坊の触山伏覚鎮法師、永里盛秀というが建立と伝えられているが、創建年など不詳。近世の初頭この地方の修験本



西持院

17

醫王山 願福寺 久保田町町西

宗派 天台宗三学寺末寺 本尊 薬師如来

由緒 創建不詳 元龜・天正のころ兵火により灰燼になったの伝えあり。現在の寺院は大正時代初期の再建とみられる。

住職名がわかっているもの、楠山円盛(就任年不明)、今泉良正(昭和二十七年〜四十八年)、今泉慶正(昭和四十八年〜四十九年)、今泉好正(昭和四十九年〜現在)



願福寺

一、檀徒人数 八拾六人

住職 室中密参 古賀台山 藤川象山 光山覚禅

現任職は山下明燈(小城晴氣、見明寺住職と兼務)

寺宝 古文書 四通(村田安良、同氏久、政義の書状)

印状、馬場赦免証文案、村田安良屋敷地寄進状など、村田氏の手厚い保護を示す書状が伝えられている。

〔歴代住職名〕

現建物は昭和五十二年改築、本尊の釈迦如来は昭和五十九年、檀徒の浄財で修復された。

開基 松蔭貞、二世 春谷芳、三世 悦道喜、四世 雪潭豊、五世 愚溪明、六世 教外別、七世 鉄柱梁、八世 龍界林、九世 栄山智道、一〇世 月泉悦、一一世 野中禅雄、一二世 前山義補、一三世 原潔臣(兼務)、一四世 西川龍雄(兼務)、一五世 原晃道

16

王子山 三学寺 久保田町上恒安

宗派 天台宗 本尊 聖観世音菩薩

由緒 創建は不詳 奈良時代の終わり頃、風水害防除のため、僧仁海(雨僧正)が三学寺を創建させたと伝えられる。この寺は戦国動乱で数度の火災に遭っている。明治時代の寺院帳には次の記述がある。

一、由緒 宝永六己丑年(一七〇九)旧佐賀藩主親族村田八助久祖村田政利爲

祖先本寺十四代治節ヲ請開山一寺建置ス

一、堂宇間数、本堂三間二七間、仏間二間二三間 庫裡五間二三間

一、境内坪数 千五百貳拾壹坪



三学寺

山派山伏の法頭職を勤めたといわれる。享保十七年（一七三二）火災焼失した。  
寺宝 応永十一年（一四〇四）銘大般若經の写経本  
墓地 宮中寄人歌人千葉胤明、富永佐渡守盛久の墓石、供養塔がある。

明治の寺院調には堂宇 五間二四間、境内坪数 二百三十坪 檀徒 百四人とみえる。

この寺は本藩社寺方役所と交流があったことを示す古文書が残っている。

〔歴代住職名〕

開基 覚鎮、第二世 鎮栄、第三世 鎮海、第四世 叡増、第五世 増祐、第六世 祐意、第七世 叡貴、第八世 叡秀、第九世 叡盛、第一〇世 叡舜、第一一世 叡専、第二二世 叡元、第二三世 叡広、第一四世 叡西、第一五世 叡観、第一六世 叡海、第一七世 叡岑、第一八世 智雄、第一九世 靈玄、第二〇世 叡測、第二一世 智燈、第二二世 辨恭、第三世 辨長、第二四世 辨勝、第二五世 舜圓、第二六世 辨海、第二七世 辨隆、第二八世 舜広、第二九世 圓諦、第三〇世 圓慶、第三一世 栄真（現住職 副島栄真）

19 林泉山 真光院 久保田町新田

宗派 天台宗 本尊 不動明王

由緒 創建不詳 天文年間 龍造寺隆信開基。開山は玄清部の盲僧と伝う。九州三十六不動霊場第二十九番札所として知られている。

〔歴代住職名〕

開基 活水、第二世 元清、第三世 精功、第四世 圓応、第五世 一如、第六世 自參、第七世 禅智、第八世 長山、第九世 圓立、第一〇世 林泉、第一一世 喜光、第一二世（現住職）栄真（住職の姓は副島）

20 二王山 本能寺 久保田町徳間

宗派 日蓮宗 妙福寺末寺 本尊 釈迦如来 多寶如来 日蓮六菩薩

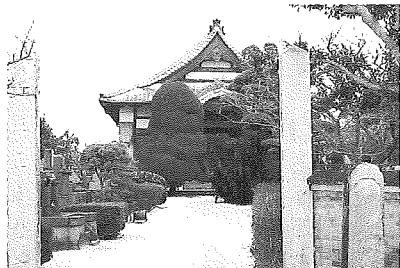
由緒 創建永享二年（一四三〇）と伝えられる。

〔歴代住職名〕

開基 日親、第二世 日行、第三世 日善、第四世 日隆、第五世 日観、第六世 日爲、第七世 日慶、第八世 日源、第九世 日能、第一〇世 日然、第一一世 日忠、第二二世 日理、第三世 日體、第一四世 日義、第一五世 日経、第一六世 日道、第一七世 日乘、第一八世 日辨、第一九世 日性、第二〇世 日研、第二一世 日什、第二二世 日遵、第二三世 日厚、第二四世 日運、第二五世 日精、第二六世 日教、第二十七世（現住職）日郎（石丸哲朗）



真光院



本能寺

寺院帳に堂宇 三間二三間半、境内 四百貳拾三坪 檀徒人数 二百人とみえる。

21 昌永山 龍光寺 久保田町草木田

宗派 日蓮宗身延山派 本尊 十界本尊曼荼羅

由緒 永享二年(一四三〇)十月、塚原大隅守平清房、英僧日親上人の教化を得て、館を寺とした。天保時  
代(一八三〇～四四)火災に遭うも、時の和尚の力により本尊、過去帳等を持ち出した。

寺宝 日賢上人曼荼羅、日重上人曼荼羅、日乾上人曼荼羅、日遠上人曼荼羅、釈尊大涅槃絵 当寺三三世慈

福院日正上人朝廷下賜五条、藤原益宣寄付状(古文書一通)

境内 西原大明神堂、昭和二年当時三三世慈明院日露、十方女人の安産守護の

ため建立した。

末寺に西新地干拓入口に寿福庵龍王社がある。この龍王社地下には法華  
經一部を本尊として小石六万九三八四個に經文を書き埋めてある。

〔歴代住職名〕

- 開基 久遠院日親、第二世 日祇、第三世 日淳、第四世 日合、第五
- 世 日音、第六世 日清、第七世 日粒、第八世 日定、第九世 日賢、
- 第一〇世 日勤、第一一世 日宝、第二二世 日応、第一三世 日量、
- 第一四世 日耀、第一五世 日微、第一六世 日能、第一七世 日昇、



龍光寺

- 第一八世 日如、第一九・二〇世 不明、第二二世 永山淳正、第二
- 二世 徳富聚学、第三三世 白水正山、第四四世 石丸量山、第二五
- 世(現任) 森永憲章

22 永明庵 久保田町福富(福富公民館)

宗派 浄土真宗本願寺派 本尊 阿弥陀如来

由来 不詳。初代住職は乗山將幢といわれている。現在本寺には佐賀市嘉瀬  
津の浄円寺一族が居住、ここ四〇年間無住である。

現住職 乗山昇



永明庵